

## 第3回 臼杵市議会基本条例特別委員会 会議要旨

---

日 時 令和2年10月6日(火曜日) 午前10時00分 ~ 午前11時19分  
場 所 臼杵庁舎2階 全員協議会室

---

### 出席委員の氏名

委員長 吉岡 勲	副委員長 大塚 州章	
<del>委員 川辺 隆</del>	委員 内藤 康弘	委員 伊藤 淳
委員 梅田 徳男	委員 戸匹 映二	委員 奥田富美子
委員 若林 純一	委員 匹田 郁	

---

### 欠席委員の氏名

委員 川辺 隆

---

### 説明のため出席した者の職氏名

( な し )

---

### 出席した事務局職員の職氏名

局長 東 弘樹 次長 後藤秀隆 書記 高橋悠樹 主査 清水 香

---

### 傍聴者

議員 河野 巧 議員 広田精治

---

### 会議に付した事件

1. 議会基本条例の素案について
  2. その他
- 

午前10時00分 開議

### 1. 議会基本条例の素案について

吉岡 勲

案内文と一緒に、議会基本条例のたたき台に対して、皆さんから頂いた意見を、事前

に送付させて頂きました。本日は、その内容について協議していきたいと思います。

この後、各章ごとに皆さんからご意見を頂きますが、その前に前回までは記載のなかった条例の「前文」について、委員のほうより提案がありましたので、参考に追記しております。（奥田委員から追加で前文の案提出あり）

はじめに、この前文について何かご意見がありましたら、お願いいたします。なければ、前文については次回の議題に挙げたいと思います。

若林純一

前文は次回協議、皆さん考えて来てくださいという意味がよく分からない。奥田委員ともう一つの案は誰のものなのか。なぜ名前を伏せるのか。

吉岡 勲

追記・削除にも名前を出していないので、前文もそうした。

戸匹映二

今後、これ条例なんで文言を1つ1つ詰めないといけない。どんどん議論していく上では、名前とか云々以前の問題で、もうどんどんオープンにして議論していかないと、話はすすまないと思うので、そこは気にしなくていいと思う。

若林純一

あと追記・修正の意見が、素案に対してどういうお考えで出されたのか説明がないと、議論が進められないと思いますけれどもいかがでしょうか。

戸匹映二

前文の趣旨に基づいた内容でずっと話が続いていくわけで、前文の趣旨、目的が明確になっていないと。その辺のちょっと順番をどうするかということも検討したほうがいい。

吉岡 勲

前文からという意見がありましたが、どうでしょうか。

奥田富美子

前文から進めたほうが、内容も自ずと深められる。

梅田徳男

これは私が前文ではなくて目的ということで書いてある。この目的に沿って整理して

いけばと思ひ、以下追記等をした。

若林純一

前文としてちょっと書きぶりに違和感があったんですが、そういう趣旨であればよくわかりました。最後に、実現可能な条項をもって構成するものとするというような書きぶりがあったので、いろいろ変えるべき必要があるという前提で作られているというふうに今思った。基本的な骨子については、梅田議員も否定的ではないというふうにとらえますし、先に条文をしっかり練って、前文を整えるっていう形で進めることについて、私はそれでいいんじゃないかなと思います。

伊藤 淳

私はそもそも、この前も話した通り、基本条例自体がいるのかいらないのかっていうところからまずわからない。

これを作る意味っていうところがまずわからないっていうことがありまして、そこからいくと、何で作るのか。まずスタート時点の、前文なり目的なりを、十分に詰めていただきたい。

作ることありきっていうよりも、必要かどうかっていう議論もしていただく方向で今話があると思うんですけど。

この前文なり目的、内容を皆できちっと話をして、共通理解の上でしないと、そもそも守られる条例にはならないと思うので、まずはスタート時点の話をきちんとしていただくということに対しては賛成であります。

内藤康弘

私は基本的に、今の伊藤委員のご意見に賛成です。

大塚州章

この条例を作ること自体の必要性を議論して欲しいということですよ。

戸匹映二

今の議会の現状、課題は何なのかっていうところをしっかりと頭に入れておきたい。

奥田富美子

最初にフリートークでいいのかなと感じました。

基本的には、この特別委員会を立ち上げるというのは、全員で決めたところ。でもそこがわからないということであれば、意見を出し合っても話し合ってみたらどうかなと思います。

匹田 郁

必要性はしっかり議論していただきたい。方向性が決まった流れの中でやるほうが、やはり皆さんも深められると思います。

内藤康弘

さっき奥田さんが言われたように、作る事はもう全会一致で決まっているじゃないかというような話でしたが、誤解を招くようでしたら申し訳ございません。あくまでも作ることに反対ではありませんが、きちんとした内容であれば私は作ってもいいと思っています。作るのは前提で我々も参加していますが、そこはご理解ください。

吉岡 勲

ではこれから、フリートークを行いたいと思います。

若林純一

実施・実現可能性について、いろいろ考えがあるんだろうなというところで議論がされるだろう。

戸匹映二

今の現状から、情報公開、市民の意見取り入れ、すすんでいる議会にはまだまだ追いついていない。

伊藤 淳

先例申し合わせがあり、住民の皆さんに十分に外に打って出て、乾杯条例を作られたりとか、いろんな動きもこの中でやって来られた歴史があり、守らないといけないマナー、法的なものも入っていて、今回条例を作る必要性がよくわからない。これでは不足の部分があるのかというのが、そこから実はわからないということです。

内藤康弘

先例申し合わせが、条例に格上げできればそれがいいのかなというふうに思います。ただし、前回何でできなかったのか。いろんな障害があったということだったんで。内容としてはそんなに変わらないと思います。条例であれば、罰則をつけてもいいのかなというふうに思います。そういう部分も含めて議論するべきではなかろうかなと思っています。

梅田徳男

議長選で議長がおっしゃったことがスタートで、皆さん集まって話をした時に、作り

始めるべきだという認識でした。

先例申し合わせの中でいろんなことが取りまとめられているんですが、先例というものを整理した上で、条例を優先するという風潮がありますんで、これを本当に実効性あるものとして整理した上で、逆に先例を整理して、統一化を図るべきじゃないかなというふうに思います。

奥田富美子。

先例申し合わせは手引きのような形で、議員の中での申し合わせなので、条例になると市民との約束になると思っていて、それはより私たちにとって厳しいものであるというふうに思っている。それぞれ皆さん気をつけることとかあると思うんですけどそれを明らかにして、みんな同じ認識で、市民との約束を、果たしていく。そして、やっぱり今、若者中心に政治離れがある中で、議会は議会、市民は市民じゃなくて、それぞれ市民とは繋がっているとは思いますが、私たちは臼杵市民の代表であるので、ここの地域のという、そういう一面もあるけれども、そうではなく、市全体をどうしていきたい、どうしていこうかっていうところです。

伊藤 淳

市民への約束という形で、きちんと本当に本気でみんなを守る、約束して行動するんだっていうものを、我々がちゃんと話をして決めていくっていう、何かある意味、拘束力を持ったものにしていくんだっていうふうなお話であると、とらえたんですけど。そのためには、やっぱり臼杵市議会として何をやるのかというのが、ますます多分求められるものなんだろうなという気がしました。

匹田 郁

私は議長選で、条例を制定したいので皆さんよろしくお願ひしますという流れで、今こういう特別委員会ができた。議員必携とか申し合わせ事項、それが最良のものであってはいけない。条例化して、ちゃんとその下にそういうのは置く。それからそれがまた時代に合っているかどうか改訂、だけど一番基本的なところ、大切な部分。やはりちゃんと自分たちで作って、それからどういうふうに運営していくか、また変えていくのかそれからまた発展させていく。私はそう思って、これはぜひ条例化して欲しいということでもあります。

大塚州章

私も条例化して、いろんなことをやりたかった1人であります。

やっぱり市民との約束で果たさなきゃならないこと、そしてそういうのを明確にして、もう少し市民にわかりやすく、開かれた議会、これをもっと身近な議会に、もう一つ寄

り添うような形でできたらなと思います。また、こういう議員同士で活発な意見交換をしていたんですけど、ちょっと今それが低調になっている。

その辺のところも含めて、議員間で意見交換をし、総意に近い形で基本条例が、出せればいいかなと思いますので、自由闊達な意見・討論を、できる議会になって欲しい。

合併当初30人近い中で、議員を3つに分けて政策討論会というのを作りました。それを全体会議で、30人の会議で意見交換して、議会全体としては、どの提案を主としてあげて、執行部の三役とさらにまた、意見交換をするというようなこともやっていました。そういう流れがあった、執行部や事務局の中に政策調査の係りがありました。

その名残が、やっぱり各委員会で分かれて、いろんな意見交換をしている部会という形で今調査していると思います。

匹田 郁

それで事務事業評価っていうのが、生まれたと思うんですけど。それを私たちは、その活動に対しては監査権の問題等あって、こういう流れになったと思います。

吉岡 勲

議員の数が少なくなったもんですから、運営方法が大きく変わりつつあると思っております。

大塚州章

まず議員が、事務事業をしっかり把握して評価してないのに、新しい提案とかいうのはできないんじゃないかというのが、そういう政策討論会の中からフィードバックした。そういう経緯があったと思います。

吉岡 勲

条例は議会として市民との約束だと思っております。これまでは、議会の中で決めたことだけだったんですけど、これからやはり、条例として承認されれば市民に対する約束なので、しっかりこれから条例に沿った、議員として活動していかなくちゃならないと思っております

特に県下で、最後2番目になるんで、しっかりしたいいいものを作っていきたいと思っております。

伊藤 淳

平成29年2月に来た、大阪府寝屋川市議会の視察資料で、市民との交流もあり、各所との意見調整もあり、執行部とのやりとりもありということ、読ませていただいて、すごいなと思っているところで、ある意味目指すべき姿はこの辺にあるのかなというふ

うには思っていたところです。

それが当時、条例なくできていたということと、当時先例申し合わせがある中で、ここまでのことはできている。これを条例化しないといけないという、その違いが分からない。

#### 大塚州章

形より内容をまず先にやろうよってというようなことが、当時ありましたんで。まず形を作る前に、内容の形を作って活発に意見をすることからでないと、なかなか条例を作っても。当時は条例作るのがブームだったけど、臼杵市議会はずっとのほうからやろうという内容で、政策討論会を始めました。逆にその時は、条例を作ったら縛られて、自由闊達な動きができなくなるんじゃないかというような風潮がちょっとありました。

それで、平成20年に議運の委員長のとき、農業の関係で条例を作らせてもらったんですが、その時はやっぱり水資源が枯渇してということで、それを政策討論の主題にした。武生議員、大嶋委員長でやられていまして、水資源の提言をした。農業も関係するんで、これから先は主軸として農業基本条例がいるじゃないかということで、部会を立ち上げて、それで52回の議論、市民との意見交換を5回ほどさせてもらったりしました。

ただ当時、そういう何て言うんですかね、こうやりたい、やらなきゃいけないっていう雰囲気、議会基本条例よりも上回っていたという情熱がすごくはあったかなと思います。

それで、条例ができて、議会の視察に対する説明、公民館で市民向けの条例説明をしたと思うんですね。そういうのは、やっていますので最初はいらないかなと思ったんですけど、自分が議長だったときに、やっぱりその上に確固たるものがあると肉付けができるかな。議会として、まず議員が変わったり、新しく入ったときに、これなんだよってということが説明できるといいのかな。議会基本条例がいるかなというふうに、ちょっと変わっていったところがあります。

#### 戸匹映二

その活動がどうして継続できなかつたのかということが問題だと思うんですね。せっかくいいことができていたのに、それを生かしていないというところ。じゃあこれを継続的にどうやって繰り返していくのか合わせて考える。次に残す必要があるんじゃないのかなというふうに思うんですけど。

#### 大塚州章

その通りだと思います、そこに縛りを設けるといってわけじゃなくて、起爆剤になるような条例であって、よっしゃこれをもとにやるぞというような条例になると私はすごくいいなっていうふうな思いはありました。

若林純一

当時の活発な議会が、私が入ってからそんなふう感じたことはなくて、どっちかという活発にもっとここで言うところの開かれた議会にするべきだっていう思いがすごく強くありましたので、今大塚委員が言われたように、昔活発にやられてやっていた時の議会を取り戻すというか、そういう形にするために、一つの規範としての条例がいるなということであれば、とても私はありがたいし、力強く今お言葉を拝聴しました。

伊藤 淳

私なりの理解として、熱がある時には活発な活動ができていて、ちょっと今停滞しているというふうな中で、波があってはいけない。議会として、市民に対して約束をするということでこういった活動をしますという宣言をして、公開をする、ある意味長期の事業計画を市民に対して示すと。

議会はこういった事をやりますよっていうふうな、位置付けのものをはっきり示す、それに基づいて進めていくという形を作ろうとするんだろうなと思ったところでありませう。必ずこの水準を守っていくんだよっていうのを市民に対して示すということになるのが条例化というふうな今理解をしたところではあります。

大塚州章

その通りです。今条例がない中で市民に打って出るということが、議会としてまだ今正式にはできないというのか。なので、今総務委員会では、地域振興協議会と意見交換という形をとって市民の中に出ていこうと、総務委員会の皆さんは賛同してくださったんで、これからまたそうやって、条例がなくてもやることはいっぱいあるんで、どんどん出ていいかなと私は思うんで。

だから、それを条例があるから出ないといけんというような議会では困るなと。むしろ、やっていることが進んでいるような形であると一番いいのかなというのが思いであります。

奥田富美子

意見交換を見ていて、いろんなふうなここの委員会が展開されていくといいなあと。大塚委員がその農業関係の条例を作るときに、市民への説明もしたというのはいすごいなあとと思うんで、この議会基本条例を作るときも、この中である程度のものができたら、市民から意見をもらうようなことをしたりとか、それ以前に、そもそも今ここがちょっとまだ盛り上がってないというのがありますが、市民に今、皆さんは議会に対してとか議員に対してどんなイメージがありますかとか、どんなことをしてもらいたいと思っておりますかとか、簡単なアンケートとかを取ったりすると、またそうなのかという認識ができないかなあとと思います。

どうしても私が意見を聞くのは、周辺の人になるので、やっぱり幅広くアンケートもいかなと思ったのと内規を格上げしたりとか、少し整理したりとかいう作業もこの委員会の部会みたいになもので、そっちもこうできたら少し見直すみたいなことも合わせてしたらいいのかなと。条例に逆に入れたほうがいいものがあるなら、そういうこともいるのかなと感じました。

吉岡 勲

申し合わせ事項と、条例とはちょっと別の問題なんで、改めて代表者会議なんかで議論していただきたいなと思っています。

奥田富美子

条例は議会で決める、内規は変えてもらいたいこととかがあれば、代表者会議で出して、そこで揉んで全協で確認でしたっけ。だから全然違うものですよ。

内藤康弘

ある程度の趣旨はもってアンケートする方が、私はいいのかなと思います。

思ったのは、農業関係に関しては市民全体からいけば一部です、今から作ろうとするのは市民全体ということなんで、どこから意見を拝聴して、この条例に反映をさせるかは、これからベースにするところの基準をどこに持っていくのかと、ちょっと今感じました。

吉岡 勲

基本条例、これを作ることで再確認できたと思いますが。

伊藤 淳

位置付けとして、確実に委員がやっていくんだっていうことを、みんなの意見なので。計画的、確定したものを市民に対して示してやるという、こういうことに関しては賛成ですので、前向きに作る方向で検討に入ることに関しては、理解できました。

あとは、本当に何で作るのかっていうところに戻るんですけど、それは臼杵市議会が何をするのかっていうところを十分揉んでいただく中で、私の理解が深まっていくだろうなというふうにちょっと思ったところです。

大塚州章

これから活性化のためには、盛り上げていくような前文にして作った方がいいというような意見ということでよろしいですか。

伊藤 淳

まずは、これをやるんだっていうふうな、みんなの思いが多分前文になったりすると思うので、そっから降りてくるっていうのが条文だと思いますので、前文作り、目的、皆さんが共有していくっていうところに、まずはこれから入っていただけるとありがたい。

吉岡 勲

それでは今、伊藤 淳委員の最後の話がありましたように議会基本条例を作っていきますので、よろしく申し上げます。ここで5分間休憩します。

( 休 憩 )

吉岡 勲

では前文から作業に入るのか、条文から協議するのか各委員に伺います。

若林純一

奥田委員、梅田徳男が前文の案を作ってくださっているので、この趣旨説明を受けて、各自作るか。作るにしても、この二つの趣旨をしっかり踏まえた上で、追加修正、或いは全然違うものを作ってくるというようなことをされるのがよいではないかな。前文から。

戸匹映二

前文からっていうところなんですけど。議会の問題は何か協議を具体的に、市民のどういう声があるとか、どういうふうに自分が感じているとか、そういったところの形をどっかで取り入れると。

このまま本文に入っていくって、なかなかみんなの思いも違うし、まとめるのが難しいでしょうから、そこもちょっと平行して寄る形を何か取るというやり方がいいのかちょっと難しいんですが、そこをちょっと検討して条例を作るための、目的は何かというところがいろんな意見があろうかと思えますし、いろんな思いが違うでしょうから、そこは議論していく中で必要になってくる。

伊藤 淳

条文よりも前文からお願いしたい。

内藤康弘

同じく条例よりも前文からお願いしたい。

梅田徳男

前文を見ていただければわかると思うんですけども、前文で条例はできないと思うんですね。

前文の中で確かにその通りになればいいというところもあるし、実態把握されてない部分もあるし、今臼杵市が本当に何が必要か、その議会活動の中で何が問題なのか、どういうことをすればいいのかっていうところの整理をしていくという流れがないと。ということからいくと、やっぱり条文ありきだと私は思います。条文から。

奥田富美子

意見交換するまでは絶対に前文からと思っていましたが、その考えは少し薄くなっているのと、せっかく出されている皆さんからの意見を一通りみて、そして、最初の前案に対して、削除という大きく提案分と違うのが4点ここにあるので、ちょっとその辺のご意見を出していただいて、今日は共有して。今後委員長にお願いしたいのが、例えばアンケートは、したらどうか、いいんじゃないという空気が流れたと思うんですが、するかしないかも含めて、今後のスケジュールをちょっと提案をしていただいて、完成までのスケジュールがちょっと私がいまいちわからないので。どこの完成を目指して、いつからの施行を目指すかみたいなことを少し、大枠を提案していただいたらいいかなと。それは次のことで、今日は出ている意見を、出した方が少し説明すると良いと思います。前文からにはにこだわりません。

吉岡 勲

前文からか条文からか決めないと、行ったり来たりするので。どうなんでしょうか。

若林純一

要するにその共通認識っていうか、議会に何が求められていてどういう状況であるのか。例えば、中には十分やっていますよ、条例はいりませんと。

基本的には今までの申し合わせを、きちんと条例化すればいいですよっていうことはあるでしょうし、今は全然やれてないから書かないといかんという思いを持っている方もおられると思うので、前文か条文かというよりも、今議会が求められていることで、市民がどんなふうに見ている、何ができていて何ができてないのかっていうところの、現状認識をもってまずしないと。

前文を作るにしても条文を議論するにしても、そこが共通認識としてないと議論が噛み合わないかなと、ちょっとそんな気がしてきました。

それで、アンケートという話がありましたので、やっぱり私たちは市民の代表であります。十分な市民の負託にこたえられているのか。あるいはこういうことができてないんじゃないかという目があるのか、そのあたりを、共通認識として持った上で、できる、

できない、やるべき、やるべきでないという議論はしないと。そこがちょっとずれると、誰の声を聞くのか、どういうところの意見を拾うのかという、それによってはまた議論がかみ合わない恐れもあるので、共通認識として今の臼杵市議会が、どういう状況にあるかというところを踏まえて、前文か条文かという話にしたほうが良いと思いますし、ある意味どちらもセットで、自分たちの考えを持たないと作り上げられないと思います。

吉岡 勲

進行が大変難しいので、上に行ったり下に行ったりしながら進行をと思っっているんですけども。今言われたように、固定して話してもらうのではなく、やっぱりフリートークをしながら揉んでいく必要があると思っております。

それと、工程のほうなんですけど、来年の9月議会に上程したい。あくまで案なので、皆さんと協議しながらやっていきたい。

大塚州章

アンケートは、まず議員がどう思っているのか。例えばここの特別委員会の主催で、他の議員と意見交換する。それをもって、もう1回ここでそれを生かして話したほうがいいのか。これを作る前に皆さんが今の臼杵市議会に対して、こういうのが足りないとか、ここはもっと伸ばすべきだとか、意見交換でぜひ一人一人聞いたほうがいいのか。それをもって、特別委員会が条例に生かしていくというようなこともあるかなと思っ

若林純一

今のお話を伺って。これの追記と削除については、そういう議論なしでやっているの

吉岡 勲

あくまでも、前回からのたたき台ということでもありますんで、決してこれにこだわる必要はないと思う。そういうことで皆さんとこれから相談しながら、言われた事を揉んでいきたい。

若林純一

いやだから、今からどうするかを決めていただかないとちょっとわからない。

吉岡 勲

だからフリートークしていただいた中で、前文と条例にあることを組み合わせていきたいと思っております。

若林純一

今出ているのはアンケートをとるか、議員間で討議するか、現状認識を深めてはどうでしょうかというの、私も大塚委員も言われたところなんですけど、それに対してどんなふうなアクションをするのか。

大塚州章

ちょっとすいません、休憩を。

( 休 憩 )

吉岡 勲

副委員長と相談しながら、皆さんとアンケートをとり協議していきたいと思えます。

大塚州章

まずは議員間の意見交換関係としてアンケートをして、認識を、反対意見もあるでしょうが。そういう認識を持ちながら、頂上に向かう作業をされるかと思うんで、農業の条例のときに、いろいろ前後しましたが最終的にはその振動がなくなって一本になったんで、その振り幅はあると思いますので、しっかり皆さんと論議ができたらいいかないと思いますんで、とりあえず委員長と相談しながら、やらせていただきたいと思えます。

皆さんの中で、こういうことを聞いてという場合は、また委員長のほうに直接ということ。

若林純一

もう臼杵市は最後のほうなので、先進事例とかいろんな事例があって、なるべくその網羅した形で、材料として不足のないような形になっていただければいいかなと。

奥田富美子

それから委員長にはご苦勞をおかけしますが、行ったり来たりするというのは仕方がないことだと思っていて、さっき大塚委員もおっしゃった、委員会のいわゆる討論みたいなことって、私はこの何年間ではほぼないので、それ初めてのこととして、とてもいいことだと思っておりますので、そこを大事にさせていただけたらいいと思えます。みんな違う意見を持っているわけですから、そこのすり合わせというのはとっても大変な作業

で、でもそこが一番議員にとって大切なことだと、すごく感じます。よろしくお願ひします。

吉岡 勲

今日はフリートークで深めました。ただ、これから個別に入っていくときには議論を重ねたいと思います。よろしくお願ひします。

## 2. その他

吉岡 勲

次回の開催は、今月の20日あたりを予定していたんですけども、アンケートをとったり、若干延ばしていただきたいと思います。1か月後の6日前後ぐらい。

大塚州章

会派のほうにも、アンケートの件周知をお願ひします。

吉岡 勲

以上をもちまして、第3回特別委員会を終了します。

午前11時19分 閉会

---

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定を準用し、ここに記録を作成する。

令和2年10月6日

白杵市議会  
基本条例検討特別委員会  
委員長 吉岡 勲